みんなの広場

TOKOROZAWA ものしりウォーキング 44

上山口・剣術大絵馬

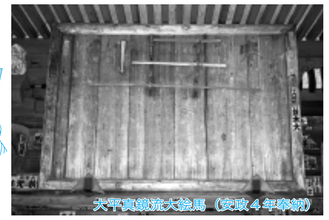
金乗院本堂

西武ドーム近くに、金乗院（山口観音）という古刹があります。遠方からも参詣客が訪れる歴史の古い寺院です。

金乗院は、絵馬が多く奉納されている寺院としても知られています。絵馬は、祈願やおれの意味で寺社に奉納する額です。もとは馬の代わりに馬の絵を描いて奉納したことからそう呼ばれるようになったといいます。

金乗院の絵馬の中には「六歌仙大絵馬」「煙草屋図大絵馬」「富士巻狩図大絵馬」「算額」のように、市の指定文化財になっているものもあります。

さて、本堂の真正面に掛けられ、木刀の付いた2枚の大絵馬をご存じでしょうか。2枚とも色が落ちて何が描かれているのか見た目ではほとんどわかりません。実は、絵ではなく名前が書かれています。


大平真鏡流大絵馬（安政4年奉納）

この大絵馬は大平真鏡流という剣術の一派の門人らが奉納した絵馬です。

大平真鏡流というのは、江戸後期から幕末にかけて八王子を中心に一派をなした剣術の流派です。流派の起こりは、下野国横堀村（現在の栃木県下都賀郡大平町）出身の若菜主計豊重が創始した剣法で、太平山で悟りを開いたことから名付けられました。天明8年（1788）ごろ江戸青山に道場を開き、八王子へ出張げいこに行くようになって門人を増やしました。

幕末期は、世情の不安から江戸を中心に剣術熱が高まり、流派の数は500ともいわれました。入間・多摩地方では、近藤勇の天然理心流や逸見太四郎義年の甲源一刀流などがよく知られています。

金乗院の大平真鏡流大絵馬は、向かって右側が文政8年（1825）、左側が安政4年（1857）に奉納された額です。近年、このうち安政4年の絵馬の内容が明らかになりました。同絵馬には50人以上の門人の名前が書かれ、そのほとんどが狭山丘陵周辺の村々の農民であることがわかりました。当時、剣術が農民の間で広く行われていたことを示す興味深い史料です。

本堂の真正面の最も目立つ所に掛けられた2枚の剣術大絵馬は、単に当時の流行というだけではなく、剣術の勢いを感じさせます。

はっらっつ ところ 野老っ子

安全なまちを願う～やりがいと緊張感～

植木　雅子さん
（中新井在住）

歳末の火災予防と警戒を呼びかける声を耳にする時季です。私たちの安全な生活に欠かせない消防署。今回は、多くの男性隊員と一緒に活躍する、市内初の女性消防隊員の植木さんを紹介します。

植木さんは、消防隊員としては1年目ですが、消防士として2年間総務の仕事をしてきました。現場を知ることの必要性を感じ、実際に消火や救助活動をする消防隊員への転属を希望したのです。

消防士になるきっかけは、「テレビの特集番組で消防士の活躍する姿に感銘を受けて、以前からなりたいと思っていました」。

消防士の仕事は『災害を防ぐ』という明確な目的があり、世の中になくてはならない仕事。その目的を遂行する姿にやりがいを感じていたそうです。

女性は消防士になれないものだと思っていた植木さん。大学1年生のときになれることを知り大学を辞め、消防士を目指しました。家族や友人はこの決断にビックリしたものの応援してくれました。

現在は、災害現場での情報収集や広報活動を担当。緊迫する現場への出場は50回を数えます。最初の出場は車のオイルが漏えいする交通事故現場。赤色灯が回り、サイレンが鳴る緊急走行に「ビックリした」と語ってくれました。

ハードな訓練について聞くと、学生時代バレーボール部だったことから「体力に自信あり」と持ち前の明るさで答えてくれました。

「都会と田舎の両面性がある所沢が好き」と語る植木さんは、所沢に住んで20年。「残念なことに所沢は交通事故や火災が少なくはありません。安全なまちであることを望んでいます」と語り、一人ひとりが救命講習会や消防訓練を通して防災などの知識を身に付けることを願っていました。その願いは「音楽活動を通して防災を伝えたい」と消防本部の音楽隊に入隊していることからもわかります。

いかに早く反応できるかが鍵である消防隊員。この取材を受けているときも無線機を傍らに緊張感を持続していました。「男女に関係なく消防士を希望する人が増えてくれれば…」と語る植木さんの澄んだ目に力強さを感じました。

緊急車両の前で

▲大勢の観客の前でジャンプ！多くの催し物でにぎわった手づくりの祭典「所沢市民フェスティバル」。
10月25日(土)・26日(日)／所沢航空記念公園

©清田　聡
▲市民による所沢ブラームス合唱団とプロの管弦楽団のハーモニーがミューズ開館10周年に花を。
11月1日(土)／ミューズ・大ホール

街かど ズームイン

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「お年玉」▶もうすぐお正月です。子どもたちの楽しみはお年玉▶渡す大人はちょっと懐が!?▶いえいえ、もらったときの子どもたちの笑顔にはかないませんね▶お年玉にまつわるエピソードをお寄せください▶締め切りは12月10日(水)必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

▲緊張感あふれる中での白熱する戦いに、周りの人も手に汗握る「青少年三道大会」。
11月2日(日)・3日(祝)／市民武道館

誰でもエッセイ

テーマ　温泉

絆

久米・柳橋　コト

「私たちもやっと旅行に誘うことができるようになった。ほんの気持ちだから受け取って」。あれから、もう十年余りがたった。

それは伊香保から始まった。「お母さん、背中を流しましょう」の嫁の言葉に涙ぐんだ私。イルミネーションで輝く湯宿、風花舞う露天風呂、雪景色の中の温泉…。情けに触れながら、離れて住む子どもたちとの年に一度の交流である。

星降る湯宿の露天風呂で、昔、母や姑を招待して喜ばれたことを思い、今は立場が逆になってしまったと感無量の私に「お母さんたちがしてきたことをまねしているだけ」と子どもたちは笑う。温泉は日常のうさを忘れさせ、心も体も和らげ、子どもたちとの絆を深めてくれる。

温泉

美原町・荻原　誉朗

先日、名栗村にある日帰り温泉「さわらびの湯」へ行きました。車で片道1時間半かかりましたが、周りは山森に囲まれたすばらしい環境でした。

温泉には自然光が注ぐ浴場やスチームサウナ、野外シャグジーがあり、「本当に村営施設？」と思えるような所でした。

その野外シャグジーで、偶然にも同じ所沢の方と一緒になりビックリしました。「昨日は家族と来たのですが、また、今日も1人で来ちゃいました。ここの温泉はとても気に入っています」とおっしゃっていました。

そして、温泉を出てフロントへ行くと2度目のビックリです。なんと「本日は地元のお祭りの日なので特別に半額です」。もう一度行ってみたいと感じさせる「さわらびの湯」でした。

山の宿

和ヶ原・田中　隆清

20歳代のころ、職場の同僚と2人で軽井沢から草津へ行く「草軽鉄道」に乗って、浅間山麓へピクニックに出かけた。地図を頼りに浅間を歩き回り、夕方には宿がある小瀬温泉に着いた。

山の中で自然がいっぱいの宿はせせらぎを挟んだ平屋が静まり返っていた。1棟が5つの部屋に別れ、障子の外に小川が流れ、部屋の隅には座卓があり静かに勉強ができる雰囲気だった。

風呂場は小川の上を廊下で渡った先の別棟だった。温泉がわき出ていて、蛾がたくさん湯船に浮いていた。これ程情緒のある宿は二度と訪れることが難しい。お袋を思い出す料理も素朴なおもてなしで気に入った。思い出に残る山の宿は友のことと一緒に懐かしく思い出される。

温泉の達人になりたい

上安松・三村　絹代

「瀬音に導かれてたどり着く山峡の秘湯」。こんな見出しを読んでいると、心はすでに温泉地。

川のほとりに湯煙りが上っている。神経痛に良い、腰痛に効く等、旅の本を買ってきては心踊らせて読んでいる。これが友人との約束なら、遠足さながらリュックサックに早々、何やら積め込む。

本当の達人になりたいのなら本の2冊も持って1人で四国でも北海道でも出かければいいのに、小心者ゆえその勇気も無く、もっぱら友人から声がかかるのを待っています。

母の時代は、旅行は夢の夢。今の時代に生まれ、ささやかな楽しみに心満たされる幸せに感謝の思いでいっぱいです。

宿

林・池田　重男

温泉に泊まる楽しみは、よい湯、宿の食事、よい景色です。

まずは、茨城の温泉での思い出。海に来たので水平線からの日の出を拝みたく、早くから海岸に出ていたが、雲が重なり一線からの眺めは不可能。待つのは時を経てはるか三重の彼方からの日の光。食事の際に聞いた話では、「ここに住んでいても年間を通して水平線上の眺めを味わえるのは数えるほど」とのこと。

次に、伊豆での話。夜が明けるのを待って外に出てみると、前方は岬が張り出していて水平線上のお日様は眺めなし。ここでの宿は夕暮れと日没がよいとのこと。もう一度温泉に浸って帰るとしよう。

形見の温泉

和ヶ原・山ノ井　義治

父は退職後、仕事上の経験や人脈で旅行斡旋会社の嘱託員となった。企業や個人宅を回ってのツアーの募集、海外や国内旅行の添乗が主な仕事だった。

国内では温泉地が多く、筆まめな父はそのつど、絵はがきをくれた。そのコメントで各温泉の様子や父の無事がわかり、いつしか便りを心待ちにしていた。

時には珍しい名産品も送ってくれた。父のおかげで見知らぬ温泉を訪れた気分になり、少し温泉の物知りになった。

父は晩年まで旅行業に携わったが、お互いに多忙なため、2人きりでゆっくり温泉旅行に行けなかったのが悔やまれてならない。定年後は、父の巡ったいわば形見の温泉を訪ねるのが夢である。

――次回のテーマは「お年玉」です――

リサイクルふれあい館「エコロ」不用品ガイド

●**譲ります**　▷電気あんか▷加湿器▷洗濯機▷ランニングマシーン▷女の子用衣類▷キーボード▷テーブルといす4脚▷冷蔵庫▷ワープロ▷もちつき機▷電動芝刈り機▷製図台

●**求めます**　▷シングルベッドマットレス▷自転車（20インチ）▷スクーター（50cc）▷座布団5枚▷車いす▷パソコン▷物置▷ベビーベッド▷ミシン▷ベビーバス

受付方法　電話による先着順で紹介します。

休館日　月曜日、祝休日（平成15年12月30日(火)～16年1月3日(土)は休館）

申し込み・問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎994-5374・FAX994-1118）

◆再生家具抽選頒布のお知らせ
12月の木製家具の抽選会は6日(土)・20日(土)です。

とことこ 町内会めぐり

【三ヶ島第8区自治会】
～ラジオ体操の輪～

三ヶ島第8区自治会は市内の西部に位置し、三ヶ島地区のほぼ中央にあります。分譲団地を中心に結成され、現在877世帯が加入しています。

当自治会の最大の行事は、和ヶ原商店街、狭山ヶ丘中央商店街と協力して開催する「和ヶ原ふるさとまつり」です。市内で最も大きな「和ヶ原みこし」が商店街を練り歩き、盆踊りや模擬店で活気あるまつりには、近隣からも大勢の人が訪れ、にぎわいを見せます。

また、今年の4月には念願の「和ヶ原公園」が設置され、多くの人たちが利用しています。まず、早朝にやってくるのは、ラジオ体操のメンバーと犬の散歩の人たちです。昼間は、小さい子どもたちの自由な遊び場となり、夕方は、犬の散歩や若者たちのコミュニケーションの場となります。

驚いたことに、初日には6、7人だったラジオ体操の参加者が日増しに増え、今では80～100人が毎朝集まるようになりました。ラジオ体操をはじめ、ストレッチ体操や太極拳を行っています。また、毎週木曜日には体操終了後に公園の清掃も実施しています。

自治会としては公園の設置を大変喜んでいますが、利用者の方々には夜間の騒音などで、周辺住民に迷惑をかけないようお願いしたいと思います。

これからもお互いに「譲り合い」と「思いやり」の精神を持ち、みんなが親しめる公園にしたいと考えています。

公園での体操のようす